

汚染防止のために

衛生管理を行う場合、その施設の利用状況や設備によって注意すべき点が異なります。
ここでは「貯湯タンク」「循環ろ過装置」「気泡発生装置・ジェット噴射装置・打たせ湯・シャワー等」
「露天風呂」について、レジオネラ症防止のための衛生的な管理方法を紹介します。

汚染防止のための施設・機器管理のチェックポイント。

貯湯タンク	循環ろ過装置	気泡発生装置・ジェット噴射装置・打たせ湯・シャワー等	露天風呂
<p>問題点</p> <p>貯湯タンクの中や配管では、お湯の滞留時間が長いため、低い水温ではレジオネラ属菌が繁殖しやすい環境となります。そこで次のような注意が重要となります。</p>	<p>問題点</p> <p>ろ過装置内で、レジオネラ属菌はアメーバなどに寄生し増殖します。 また、浴槽や配管の内壁でもぬめり(生物膜)ができやすく、レジオネラ属菌の定着につながります。そのため、循環式浴槽のろ過装置の管理には、次のような注意が重要になります。</p>	<p>問題点</p> <p>気泡発生装置(ジャグジー)やジェット噴射装置、打たせ湯、シャワーなどは、エアロゾルを発生します。そのため、エアロゾルにレジオネラ属菌が含まれることがないように、次のことに注意することが重要です。</p>	<p>問題点</p> <p>露天風呂は外界と接しているため、レジオネラ属菌に汚染される機会が多くなります。そのため、内湯よりも厳しく管理する必要があります。</p>
<p>対処方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●湯温を常に60℃以上に保つ ●お湯を滞留させない 	<p>対処方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ろ材の種類を問わず、ろ過装置自体がレジオネラ属菌の供給源とならないように、1週間に1回以上消毒を徹底する ●1週間に1回以上逆洗して汚れを排出する ●ヘアーキャッチャーを設置し、清掃する 	<p>対処方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●打たせ湯・シャワーなどには、連日使用型循環式浴槽水を使用しない ●空気取入口から土埃と一緒にレジオネラ属菌が入るのを防ぐ <p>※連日使用型循環浴槽水 24時間以上完全換水しないで循環ろ過している浴槽水</p> 	<p>対処方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●露天湯が配管を通じて内湯に混じらないようにする ●洗い場を設けない ●満ばいの状態を保ち、溢水させ浮遊物等を除去し、清潔に保つ 